

関 西 だ よ り

KANSAI DAYORI

「ともに生きるために」 公共福祉を考える

賀川デーで
100年シンポ

公共空間の復活に向けて。パネルディスカッションでは神戸新聞社論説委員長の三上喜美男氏がコーディネーターとなつて議論を進めた。

「今の時代、もし賀川豊彦がいたら、どんなメッセージをするだろう」

「多様な立場で活動している人々が意見交換した。基調講演は東京基督教

「民間と行政の協働」、奈良県生活協同組合連合会前専務

そんな問いかけから始まった第1回賀川デー・

大学教授の稲垣久和氏。「公共福祉という試み」

「生活協同組合からの実践と課題」、近畿労働金庫

第3回100年シンポジウム「ともに生きるために」

『友愛の政治経済学』で述べた「兄弟愛の運動」

地域共生推進室室長の法橋聡氏が「CSR現場か

公共福祉という試み」が7月9日に神戸市の賀川

を挙げ、日本の「友愛と連帯」の市民社会構築の

「持続可能な社会づくりをめざすろうき

記念館で開かれた(写真下)。厳しい時代にどのよ

重要性を呼びかけた。その後の発題は兵庫県

大学の事業活動」、神戸大学

うに手をつなぐことが求められているのかを、様

理事の清原桂子氏が「と

大学院教授の松岡広路氏が「第三項としてのサブ

